

# 新井中央小だより

ホームページ <http://azalea.ac.city.myoko.niigata.jp/araich-s/otayori/index.html>

No. 268

メールアドレス [chuou@ac.city.myoko.niigata.jp](mailto:chuou@ac.city.myoko.niigata.jp)

2022（令和4）年1月28日

## スイッチ

3学期の始業式は新型コロナウイルス感染症対策で、急遽、校内放送に切り替えて行いました。子どもたちには、「短い3学期、新年のめあて、新年のやる気を生かして、1日1日を大切に過ごしましょう。そのためにも、雪の事故や健康に気をつけて！」という話をしました。

新年や新学期は分かりやすい区切りですので、心新たに何かを始めたり、頑張ったりするのに適したタイミングとも言えるでしょう。ところで、以前、ある塾のCMに使われたことから、「やる気スイッチ」という言葉が一般的に使われるようになった気がします。すっかり世の中に定着した感もありますが、そのスイッチを入れるのって、誰なのでしょう。いつなのでしょう。

### 「心のスイッチ」

東井 義雄

人間の目は ふしぎな 目

見ようという心がなかったら 見ている 見えない

人間の耳はふしぎな耳

聞こうという心がなかったら 聞いている 聞こえない

頭も そうだ

はじめから よい頭 わるい頭の 区別が あるのではないようだ

「よし、やるぞ！」と 心のスイッチが入ると

頭も 素晴らしいはたらきを始める

心のスイッチが

人間を つまらなくもし すばらしくも していく

電灯のスイッチが

家の中を明るくし 暗くもするように

東井義雄（教育者 1912—1991）の「心のスイッチ」という詩を紹介します。

「やる気スイッチ」と似ていますが、より広く深い意味を含んでいるようにも感じられます。東井さんは、他にも

**自分は 自分の主人公**

**世界でただひとりの**

**自分をつくっていく**

**責任者**

という言葉を残しています。

世界でただ一人の自分、その自分の可能性を伸ばす責任者は私自身であり、あなた自身で

ある。…やはり、スイッチは子どもが自分で入れるしかないのかもしれませんが、でも、だからこそ、私たち大人は、子どもの可能性や想いに対して「見ようという心」「聞こうという心」のスイッチを常に入れておく必要があるのではないのでしょうか。（お子さんのSOSのキャッチにも不可欠です。）

もうすぐ2月。新年に立てた目標、新学期から、来月から、今日から始めようと思うこと…スタートやリスタートのチャンスは、いつも私たちの目の前にあります。スイッチを入れるのはいつ？「今でしょ！」 …あっ、これも少し前の塾のCMでしたね。 校長 村治 隆夫

いよいよ新型コロナウイルス感染症の脅威が、現実のものとなって近づいてきました。

学校では、「児童の安心・安全」を最優先しながら、「年度内の学習内容の確実な履修」を図ります。そのために、予定していた行事や活動の延期や中止、実施方法や内容の変更を必要に応じて行っていきます。ご理解とご協力をお願いいたします。

また、感染症等を発症した児童やご家族がもしおられた場合の、興味本位の詮索、心ない誹謗中傷が決してないよう、子どもたちに指導しています。併せて、地域・ご家庭でもご協力をお願いいたします。

